古川商工会議所「地域経済動向調査」結果

景況は「令和5年1～6月期(前期)の実績」において全業種で▲2.3、「令和5年7～12月期(今期)の見通し」は3.9となり、好転の傾向を示した。

	①景況B.S.I		②売上高B.S.I		③採算B.S.I		④仕入価格B.S.I		⑤販売単価B.S.I		⑥従業員数B.S.I		⑦資金繰りB.S.I	
	R5.1-6	R5.7-12	R5.1-6	R5.7-12	R5.1-6	R5.7-12	R5.1-6	R5.7-12	R5.1-6	R5.7-12	R5.1-6	R5.7-12	R5.1-6	R5.7-12
全業種	▲ 2.3	3.9	1.6	1.6	▲ 10.2	▲ 2.3	▲ 43.8	▲ 35.2	23.4	18.8	18.0	19.5	▲ 6.3	▲ 2.3
製造業	▲ 6.7	26.7	6.7	23.3	▲ 3.3	16.7	▲ 43.3	▲ 36.7	23.3	23.3	16.7	20.0	▲ 16.7	3.3
建設業	▲ 4.5	▲ 18.2	▲ 13.6	▲ 22.7	▲ 18.2	▲ 22.7	▲ 40.9	▲ 40.9	22.7	9.1	31.8	27.3	▲ 4.5	▲ 9.1
卸売業	7.1	▲ 7.1	7.1	7.1	▲ 7.1	▲ 21.4	▲ 50.0	▲ 42.9	50.0	35.7	14.3	14.3	7.1	▲ 7.1
小売業	7.1	▲ 14.3	7.1	▲ 14.3	0.0	▲ 7.1	▲ 42.9	▲ 28.6	35.7	21.4	7.1	7.1	▲ 7.1	▲ 7.1
飲食・宿泊業	22.2	33.3	33.3	33.3	▲ 5.6	16.7	▲ 50.0	▲ 27.8	22.2	27.8	16.7	22.2	11.1	16.7
不動産業	▲ 25.0	25.0	▲ 25.0	25.0	▲ 25.0	25.0	▲ 50.0	▲ 25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	▲ 25.0	0.0
運送業	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 50.0	▲ 25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0
理美容業	▲ 25.0	0.0	▲ 12.5	▲ 37.5	▲ 25.0	▲ 12.5	▲ 37.5	▲ 37.5	0.0	0.0	0.0	12.5	▲ 25.0	▲ 25.0
自動車整備業	0.0	▲ 25.5	0.0	▲ 25.0	0.0	0.0	▲ 50.0	▲ 50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0
廃棄物処理業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	▲ 25.0	▲ 25.0	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0
士業	▲ 33.3	▲ 16.7	▲ 33.3	▲ 16.7	▲ 33.3	▲ 16.7	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 16.7	▲ 16.7	16.7	16.7	▲ 16.7	▲ 16.7

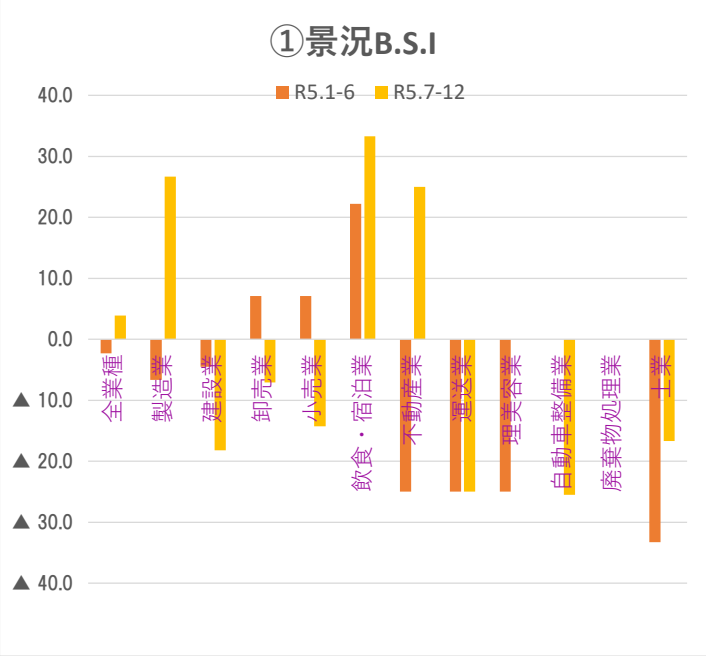
今回の調査では「令和5年1～6月期の実績」と「令和5年7～12月期の見通し」について、古川地域の１００事業所（11業種）を対象に7項目の調査を行い、64事業所より回答をいただいた。

（令和5年10月調査）

全業種でみると今期の景況は好転の見通しとなった。業種別での『**①景況における今期の見通し**』は前期と比べ建設業、卸売業、小売業を中心に悪化を示したが、製造業、飲食・宿泊業、不動産業では好転する見通しである。『**②売上高における今期の見通し**』は前期と比べ小売業、理美容業、自動車整備業を中心に悪化を示している。製造業、不動産業では好転する見通しで、士業ではマイナス幅の縮小を示した。『**④仕入価格の今期の見通し**』は、前期と比べ小売業や飲食・宿泊業を中心にマイナス幅の縮小が見込まれる。『**⑤販売単価の今期の見通し**』は、前期と比べ不動産業、理美容業、士業を除く8業種で上昇傾向となった。『**⑥従業員数の今期の見通し**』は前期と比べ不動産業を除く全業種で不足を示している。

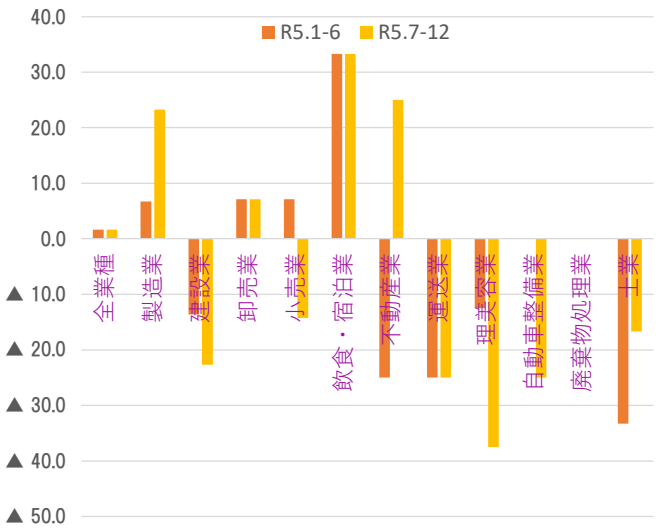
経営上の課題として、全体では「人材の確保・育成」が最も多く、次に「販売価格の引き上げ・コストダウン」「営業・販売力の強化」の順となっている。業種別に見ると、製造業、建設業、小売業、運送業、自動車整備業では、「人材の確保・育成」が上位を示す。飲食・宿泊業、理美容業では「販売価格の引き上げ・コストダウン」、士業では「ＩＴ活用・推進」が上位を示している。

主な意見・要望としては、物価・エネルギー価格高騰に対して、行政からの補助や支援、減税などの対応を望む内容が大半となった。

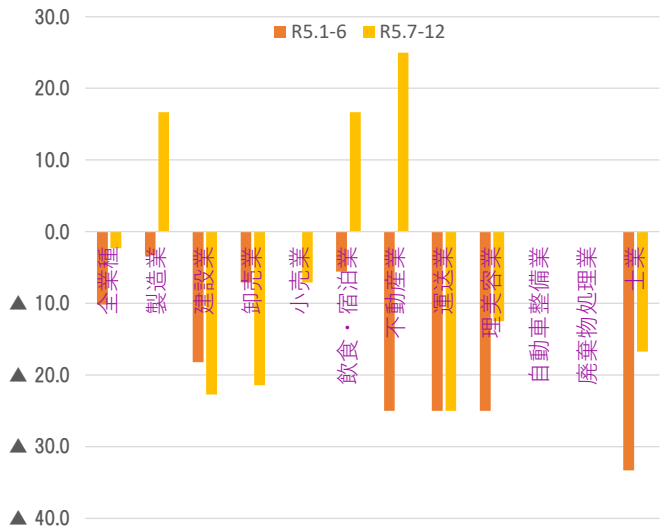


B.S.I値＝前期と現在の景気状況を比較するため、景気の方向性の判断指標。【※1】の計算式で算出された数値がプラスであれば景気に対する判断は上向き、マイナスであれば下向きと判断する。　【※1計算式：「上昇・好調の要素」－「下降・不調の要素」÷２　最大値はプラス・マイナスいずれも「５０」となる。】

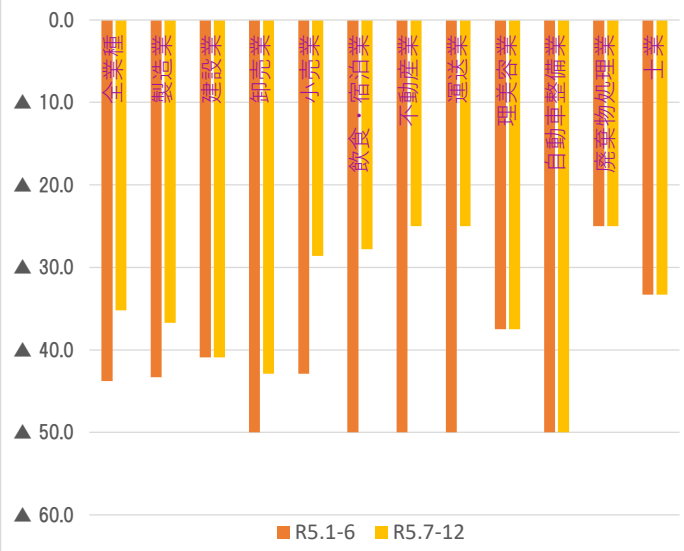
②売上高B.S.I



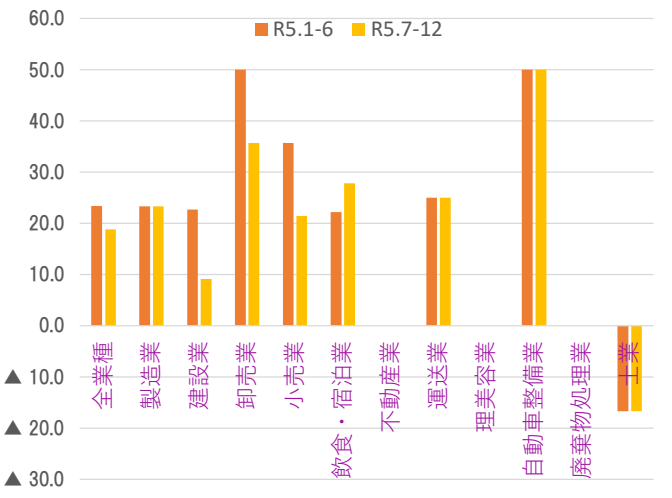
③採算B.S.I



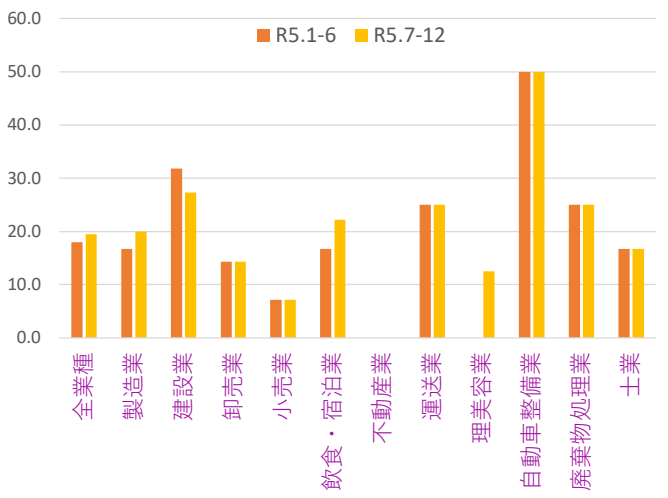
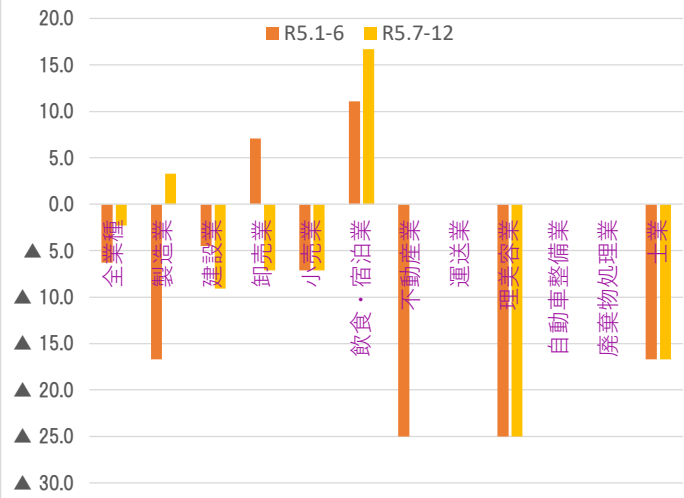
④仕入B.S.I



⑤販売単価B.S.I



⑥従業員数B.S.I



⑦資金繰りB.S.I